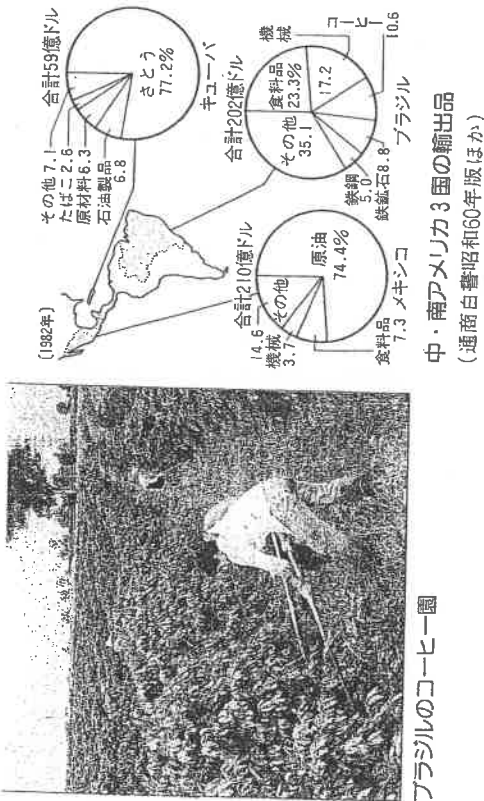




3 特定の産物にたよる国々

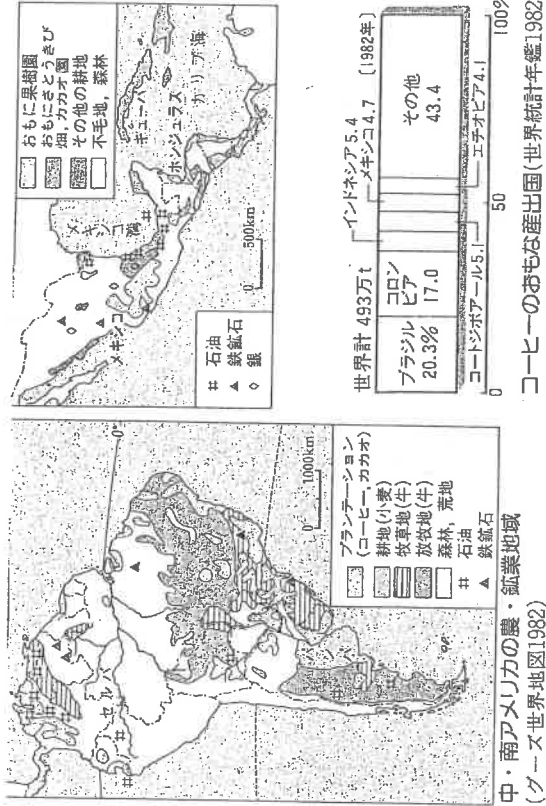
この地域の国々の経済がなによって成り立っているか、その産業や貿易の特色と問題を考えよう。

大きな農園

あるアメリカ合衆国資本の果物会社は、バナナ園を中心とする25万haの農園を、中央アメリカで経営している。10万人の労働者をやとい、3000kmの専用鉄道と65の輸送船を持っている。ホンジュラスには、この会社の農園の約30%があり、国の農産物の半分近くがそこで生産され、ほとんどアメリカに輸出されている。国の経済は、一つの会社の生産量や販売政策に大きく影響されている。

単一生産にたよる国

中・南アメリカの国々の多くは、わずかな種類の特産物だけを生産して輸出し、その収入によって、工業製品から食料まで必要なものを輸入している。中央アメリカ諸国やコロンビアではバナナとコーヒー、カリブ海諸国ではキューバのさとうなど、農産物が輸出の中心になっている。また、ベネズエラの石油、チリの銅、ボリビアのすず



など鉱産物がおもな輸出品の国もある。広いパンパを持つアルゼンチンは、小麦や牛肉などの食料を輸出している。

単一生産にたよる国々は、輸出品のねだんの変動による収入の差が大きい。また、アメリカの企業が鉱山や農園を所有したり、その流通を支配している場合、利益が国外に流れることが多い。鉱石や原油も、工業化がおくれているため、加工しないで輸出することが多い。

工業化と多角化

この単一生産による不利益を解決するために多くの国々が、農業の多角化や工業化を進めている。例えばブラジルでは、コーヒー園で綿花やカカオをあわせて栽培したり、小麦やだいに転換したりしている。外国から資金を借り入れて、鉄鋼や自動車などの工場をつくったりもしている。また、未利用の資源や農地を開発するために、アマゾン川流域などの道路建設にも取り組んでいる。しかし、インフレがはげしく、資金の返済ができなくなっている国も多い。

「ラテンアメリカ」青本典子実践（一部修正）

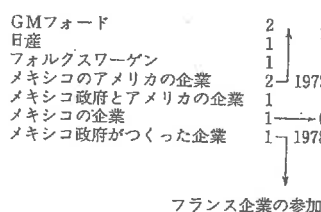
	教師の指示・発問	教授学習活動		子どもに習得させたい知識
導入	・借金の多い国 15 位以内にラテンアメリカの国はいくつあるか？ ・この紙幣はいくらか？単位はペソです。 ・ホテルに 1 週間泊まった費用はいくらか？ ◎どうしてラテンアメリカの国々は、こんなに借金を抱えこんだのだろう？	T：発問する P：答える T：発問する P：答える T：発問する P：答える T：本時の学習課題を示す P：予想する	① 紙幣	・借金の多い国 15 位以内にラテンアメリカの諸国は 10 ケ国入っている。 ・1 万ペソ。 ・数 10 万ペソかかるが、日本円では数百円。 ・借金が多い国ではインフレになりやすい。 (わからない) (国にお金がないからだろう)
展開①	○なぜメキシコは、借金をしたのだろう？ ・日本とメキシコの輸出品と輸入品を比べてみよう。 ・工業製品を輸出するほうが、原料を輸入するよりももうかるのだろうか？ ○なぜメキシコは、借金をしたのだろう？	T：発問する P：答える T：資料提示 P：班で考え、発表する T：発問する P：答える T：説明する T：再発問する P：答える	②	(国レベルでお金がないということは、輸出よりも輸入が多いということかなあ) ・日本は工業製品を輸出し、原料を輸入している。一方、メキシコは原料を輸出し、工業製品を輸入している。 ・日本は経済的に潤っているが、メキシコはそうでもないようだ。 ・工業製品を輸出するほうが、原料を輸入するよりももうかるはずだ。 ・一次産品よりも工業製品の方が、利益が多い。 ○メキシコにお金がないのは、原料を輸出して製品を輸入しているからである→借金をする。
展開②	・メキシコ政府は借金したお金を何に使ったのか？ ・なぜ地下資源を掘らずに、工場を建てたのか？ ・メキシコの自動車工業について調べてみよう。自動車生産を行えばもうかるはずだが、本当にそうになっているか？ ○なぜ自動車生産が伸びれば伸びるほど、借金が aumentando しているのか？ ・メキシコの貿易統計をみなさい。何がわかるか？	T：発問する P：予想する T：説明する T：発問する P：答える T：指示する T：発問する P：グラフを読み、答える T：発問する P：予想する T：指示する P：統計を読み取る	③ ④ ②	・メキシコ政府は、外国企業を誘致したり、自動車工業を興した。 ・資源を輸出し、工業製品を輸入していたら、いつまでたっても国内で工業が発展せず、借金が返済できない。 ・1980 年から自動車生産が伸びれば伸びるほど、借金は増えていった。 ○依然として、輸出よりも輸入のほうが多いから、借金も増えているのだろう。 ・自動車の輸出額よりも、自動車部品の輸入額のほうが多い。

	・メキシコの自動車工場では何を しているのだろう？ ・1964年にメキシコにあった自動 車会社は、その後どうなってい るだろうか？ ○なぜ自動車生産が伸びれば伸びる ほど、借金が増えているのか？	T：発問する P：答える T：発問する P：答える T：再発問する P：答える	資料集の 写真 ③ ・メキシコの自動車工場は、部品を組み立てるだ けの工場である（部品は外国に頼っている）。 ・メキシコには、自動車を開発・製造するだけの 技術がない。 ・メキシコの会社は倒産し、生き残ったのは外国 と一緒にあった会社（合併会社）である。 ○メキシコの自動車生産は、部品組み立てを主と する外国企業によるものなので、自動車生産が 増えても利益は入ってこない→借金が増える。
終 結	◎どうしてラテンアメリカの国々 は、こんなに借金を抱えこんだ のだろう？ ○どうすればメキシコの工業は発展 し、輸出が伸びるだろう？	T：学習課題を 再度示す P：メキシコを 含む各国の 経済構造を 調べる T：発問する T：説明する	◎ラテンアメリカ諸国は開発のために、資金を借 り、多国籍企業を誘致して工業生産を伸ばした。 ◎ラテンアメリカでは、工業生産が伸びても技術 の移転がなかったので、発展は難しく、借金だ け増えた。 ○メキシコが工業を発展させ、輸出を増やすには、 技術が必要である。

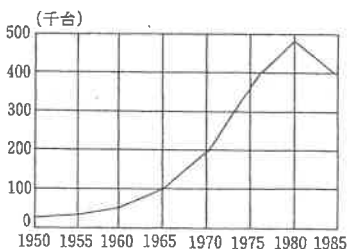
〔教材〕

- ① 『現代の農業』
- ② 『地理資料集』（全教材）、『地理統計1989』（帝国書院）
- ③ 『従属の政治経済学』（東京大学出版会）
- ④ 同 上

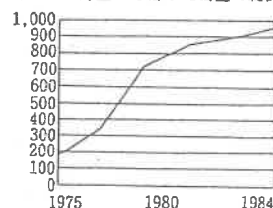
資料三 メキシコ自動車工業に参加し
た企業 1964



資料四 メキシコの自動車生産



メキシコが外国から借りた借金の総計(億ドル)



資料一 借金を抱える国々 1986

(__線ラテンアメリカ)

1	ブラジル	11兆5500億円
2	メキシコ	10兆4890億円
3	アルゼンチン	5兆3830億円
4	ベネズエラ	3兆1490億円
5	ナイジェリア	
6	フィリピン(ママ)	
7	チリ	2兆1210億円
8	モロッコ	
9	ユーゴスラビア	
10	コロンビア	1兆6016億円
11	ペルー	1兆5470億円
12	エクアドル	1兆1090億円
13	コートジボアール	
14	コスタリカ	5012億円
15	ボリビア	4930億円

(他国や世界銀行から借りた額のみ)

資料二 メキシコと日本の貿易の比較
(百万ドル)

輸 出		輸 入	
原油	14968	機械類	2614
機械類	1284	鉄鋼	670
石油製品	701	自動車部品	475
コーヒー豆	475	船	400
自動車	463	大豆	403

メキシコ(1985)

輸 出		輸 入	
電気機械	50887	食料	22427
自動車	44927	原油	20633
一般機械	44698	機械機器	19138
鉄鋼	12607	科学品	11812

日本(1987)

従属論学派についてのまとめ

<http://www.geocities.co.jp/SilkRoad-Forest/6866/kokusha2.html>

中心・周辺理論

途上国と先進国の差異を、発展段階の時間的差異と見るのではなく、先進国（中心）と途上国（周辺）の支配・従属関係に起因する両者の質的な差異であると見る立場の中心・周辺（C-P）理論と呼ぶ。

ラウル・プレビッシュ

世界の国々を工業中心国と一時産品輸出の周辺国に分け、後者は国際貿易において不利な立場におかれるとした。交易条件長期不利化の法則と呼ばれる。その後ブラジルをはじめとする途上国の、輸入品に高い関税をかけて自国の産業を育成しようとする輸入代替型工業化政策の理論的背景となった。

従属論とは？

中南米諸国が輸入代替型工業化が行き詰まり、対外債務を抱えるようになった原因を、域内の構造的要因ではなく対外的従属により自律的發展が出来なかったことに求める理論。マルクス主義を批判的に受容した中南米の経済学者たちによって唱えられた。帝国主義論と異なり、途上国の視点からの論議である。

アンドレ・グンダー・フランク

世界資本主義は経済余剰の収奪・占有を通じて「中枢」に発展をもたらすと同時に「衛星」に低開発を強いるとし、この体制内にとどまる限りにおいて「衛星」の低開発は深化するので社会主義化が必要であると唱えた。NIEs 諸国の発展を説明できないという欠点を持つ。

サミール・アミン

正統派マルクス主義からの、フランクの議論はあまりに流通主義的で生産関係を無視しているという批判に対し、第三世界への資本主義の浸透は全ての生産関係を資本主義化するのではないが、様々な非資本主義的生産関係を資本主義的生産関係に接合させることによって全体の搾取構造を形成しているのだと主張した。

F・H・カルドーゾ

社会民主主義の影響を受けたカルドーゾは、世界資本主義体制は従属国に対して影響を与えるが、従属国内部の社会構造によってその影響は異なると見なし、資本主義中枢とのつながりが強くても、それが産業化を促す社会勢力を形成するなら資本主義経済内でも経済発展が可能であると主張した。

イマニュエル・ウォーラースタインと世界システム論

マルクス主義とアナル派歴史学の影響を受け、世界を国単位ではなく一体のものとしてとらえ、世界システム論を提示した。世界を中枢、準周縁、周縁の三層に分け、中枢部は周縁部の前資本主義的な労働形態を利用してより多くの余剰収奪を行うとした。また、世界経済は50年周期の長期波動をしており、その停滞期には準周縁や周縁も発展の機会を得、三層の構造は変わらないもののその担い手は代わり得るし、覇権国も100年周期で変わるとした。これによってNIEsの発展も説明がつくようになっている。

それによると16c、アジアに大量の銀が流出した西欧では、その危機に対処するため近代世界システムが誕生し、それが300年かけて全世界に拡大していき、その拡大に飲み込まれた地域は周縁となり経済的に従属し、中核地域は多くの余剰を吸収して中央集権可能な財源を得、政治的にも周縁地域を従属させていったという。世界システム論は現在でも大きな影響を

与え、ウォーラースタイン自身も活発な著作活動を展開している。

J・ガルトゥング

暴力を人間の潜在的実現性と現実的实现性との差異をもたらす原因と定義し、一見暴力の形は取らないが、社会的構造が貧困、不平等、差別、抑圧、疎外など直接的暴力と同様の効果をもたらすことを、構造的暴力と呼んだ。南北格差の増大は、利害が一致した中心国の中心と周辺国の中心によって「構造的」に仕組まれた暴力に起因するとした。これは平和研究と呼ばれる国際政治学の学問分野のきっかけになった理論である。

比較工業化論

<http://www.h3.dion.ne.jp/~jps/writings/essay/019.html>

第一部 近代化論

近代化は政治的、経済的、文化的側面から捉えることが可能だが、本論では東北・東南アジアに於ける近代化の、経済的側面について考察する。経済的近代化は、産業革命を導入することによる工業化を指す。欧州史では既に過去の出来事となった産業革命だが、世界史的観点に立つと、それは現在も進行中であると言える。

第一章 take-off 理論

東北・東南アジアは欧州諸国と対比されて後発国と称される。後発国の近代化についての初期の研究として、ロストウ(W. W. Rostow)の take-off 理論が挙げられる。同論は、国家が産業革命から消費社会に至るまでの過程を発展段階的に捉え、それを飛行機の離陸に見立てたものである。あらゆる国は、時間的差異こそあれ、経済的条件さえ整備すれば工業化を開始(take-off)でき、やがて近代欧州の如き消費社会を迎える、とロストウは説いた。

彼の説は後発国の工業化についても楽観的であるが、現実的な見方ではないだろう。先発国の工業化の背景には植民地経営があった。後発国の工業化とは時代背景が余りに異なり、後発国の発展過程が先発国のそれと単純に一致するとは思われない。後発国の近代化を考える際には、後発国独特の特徴を把握してかからねばならない。

第二章 従属論とデ・リンク論

後発国の持つ経済的時代背景を鋭く捉えた研究者としてフランク(A. G. Frank)を挙げよう。彼は先発国による植民地支配の時代に世界規模の経済ネットワークが形成されたことを指摘した。近代には、経済を一国単位では考えられない状況が生まれたのである。複数の国家の経済が密接に結びつくようになると、一国の経済は、その国が国際関係でどう位置づけられるかで決まるようになる。

植民地経営が終わった現代にあっても、旧宗主国を中心、旧植民地を周辺とする経済ネットワークは引き継がれている。後発国、即ち周辺の経済は中心に従属し、中心へ一次生産品を輸出し、工業製品を輸入する形で成立する。第一次生産品に依存した経済は低開発の状態にある。フランクは周辺国の置かれた経済状況を「低開発の発展」と形容した。低開発の状態が発展することは国土の消耗、資源の枯渇を進めるもので、決して良いことではない。

フランクは後発国の特徴として従属性と、低開発の発展を挙げた。更に彼は、後発国がこの状況を打破する方策としてデ・リンク(de-link)を示した。これは社会主義革命によって世界経済から脱出し、中心-周辺関係をうち破る方法である。東南アジアではベトナムなどがこの方法を採用した。併し20世紀末のソ連の崩壊など社会主義の破綻が顕らかとなった現代、デ・リンクの有用性には疑いの目が向けられる。